

「平和の俳句 9」

2015年09月02日

「東京新聞」が、毎日連載している8月の「平和の俳句」から心に残る句を紹介したい。

「九条で地球まるごと包みたい 金田恵美子 58歳」。<金子兜太 「戦争放棄を定めた平和憲法の理念を全世界に発信したい」と作者は言う。いまの政府は全く逆のことをやろうとしている、とも。> ノルウェーの平和学者ヨハン・ガルトゥング博士は「戦力の不保持は今では現実的でないが、遠い将来において、世界で実現してほしい。戦争放棄をうたう九条一項を全世界に採用されるべきだ」と語っている。九条がノーベル平和賞を受賞したら、安倍首相に授賞式に行ってもらったら、どうだろうか。「九条は知覧ほたるの心です 酒井良信 90歳」。<金子兜太 知覧は特攻基地で、その記念館は特攻隊員の映像で埋まる。自分を蛭に喩えていた話も残されている。九条を支える根は深いのだ。> 知覧の記念館を観て「感激した!」と言った人がいた。私は現場に行ったことはなく、写真で見ただけであるが、「誰が、どうして、こんな青年たちを生み出したのか」と怒りが込み上げる。

「過去に目を閉ざす者らの還(かえ)る夏 上谷純代 54歳」。<いとうせいこう 過去に目を閉ざせば未来が見えなくなる。だから余計に過去へと向かう。><金子兜太 戦争をやりたい奴らが戻りつつある。70年前の大敗北を無視して。> だから「戦争はしないと」言ったのではないか 小西幸一 81歳」と言いたくなる。<いとうせいこう 81歳のこの強い一言。付け足すことなどない。悔しさと糾弾と申し訳なさとだまされた怒りと孫たちへの思いでいっぱいなのだ。> ドイツのヴァイツェッカー元大統領の罪責を告白した「荒野の40年」の講演を思い出す。戦争は全て終わった。だから「終戦」でいいという人がいる。私は「敗戦」という言葉を使っている。敗戦が日本の新生であったからである。

「米兵の遺族も悲し終戦日 宮司孝男 64歳」。<金子兜太 昔から言われてきた「汝の敵を愛せよ」には、戦争肯定の裏打ちが潜むが、この句の根は戦争反対。憎むべき戦争の犠牲故に。> 主イエスの「愛敵」の教えは戦争肯定の裏打ちはない。戦死者を悼む思いは日本も米国も変わりはない。今年の8月、戦争の悲惨さを伝えるテレビ番組は多かった。しかし、アジア諸国で行った日本軍の蛮行を伝える番組は少なかった。被害は紛れもない事実であるが、甚大な加害国であったことを認めなければ、世界から認知されることはないことをしっかり知るべきである。「若者に武器より強い夢持たせよ 小倉亜希 18歳」。<いとうせいこう まったくだ。夢を与えられぬから戦を目指す。デモのコールにもいい。><金子兜太 男の学友は武器を持ちたがる。しかしもっと強く深い夢を。> 貧困に追いやられた若者たちは「希望は戦争!」と言うと聞く。若者に夢を与えることが大人の責任である。武器を持たせて、命を晒す戦場に送るなど、最悪の政治である。

「記者が選んだ『一句』」で、文化部・出田阿生氏は次の句を選んでいる。「障害の吾が娘育むこの平和 吉沢功 73歳」。吉沢氏は、前任地の教会の会員である。ご夫妻の娘さんも障害があった。家族仲良く、本当に可愛がって育てていた。ナチズムは障害者を戦争の役に立たないと殺害した。障害者が安心して生きられる社会が平和なのである。

「戦後 70年 平和の俳句 8月を忘れない」で、著名人からの句を特集していた。「戦いの跡を伝える百合の花 女優・作家・中江有里 42歳」。20年前、映画「ひめゆりの塔」に学徒の役で出演し、ロケとは分かっているが、爆発音が怖かった。今年、学徒たちの足取りを辿った。すっと存在感を示して咲くテッポウユリが自生していて、元学徒たちの姿に重なって見えたと言う。